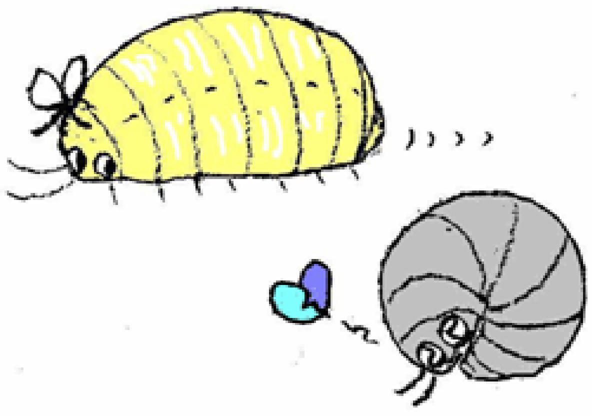
家庭菜園で見られる蟲たち

〔ダンゴムシ〕

　今年の春の訪れは早く、暖かい日にはもうダンゴムシが動き出しています。ダンゴムシはカニやエビの仲間で甲殻類に属しており、陸上で生活していますが、鰓（エラ）で呼吸をしているため湿ったところを好みます。さわると丸くなるのが特徴で、西日本ではマルムシ、他の地域では手まり虫と呼ばれることもあるようです。冬の間は集団で石の下などで越冬し、暖かくなると地上に現れ、主に植物性の腐敗物を食べて暮らしています。親は初夏の頃に自分のお腹の袋に 30〜200 個の卵を産み、１か月後くらいに小さな白いダンゴムシが現れてきます。約１年で成熟し、寿命は２〜３年に達します。

　私たちがよく見かけるダンゴムシは主にオカダンゴムシで、学名はアルマディリディウムといい、体を丸めて固い外皮で体を守るアルマジロに由来しています。足は 100 本くらいあるように見えますが、実は７対ずつ、合計 14 本しかありません。この脚の数は近縁のワラジムシやフナムシも同じです。すっかり日本の虫のような顔をしていますが、実は明治以降に外国から侵入した外来生物です。今では日本全国にごく普通に分布しており、農作物に被害を及ぼすことは少ないですが、時々花や野菜の苗をかじって私たちを困らせることもあるようです。